

12年間お疲れ様でした 篠原実 第二代四国中央市長が退任

2013年から3期12年にわたり、市政の舵取りを担ってきた篠原市長が、4月27日に任期満了を迎えて退任しました。4月25日に市役所で行われた退任式で篠原市長は、「12年間、自分なりに精一杯やってきました。職員のみなさんには、新市長の下で市民と力を合わせて、まちの発展に尽力してほしい」と話し、駆け付けた市民やしこちゅーに見送られながら、庁舎を後にしました。



篠原市政の歩みはこちらで紹介▼



市の花ミツマタをPR ミツマタ大使 大西満王さんに委嘱状



4月17日、市の花ミツマタと「紙のまち四国中央市」をPRするミツマタ大使の委嘱状交付式が市役所で行われました。大使に就任した手漉き和紙職人の大西満王さんは、「肉親の絆」というミツマタの花言葉を紹介し、「多くの方にミツマタの花を愛してもらえよう頑張ります」と意気込みました。

高速道路のPRに貢献 ネクスコ西日本から感謝状



今年3月に四国高速道路開通40周年記念式典を行うなど、本市の高速道路PR活動が評価され、西日本高速道路株式会社から感謝状が贈られました。4月7日の受贈式で同社の後藤由成四国支社長（写真中央右）は、「今後も利用者の利便性の向上と安全に努め、まちの発展に貢献したい」と話しました。



春の雨もまた成長の糧に 翠波高原で菜の花まつりを開催



4月13日、翠波高原で菜の花まつりが開催され、黄色に彩られた花畑が行楽客を出迎えました。当日はあいにくの雨模様でしたが、会場を屋内に移して行われたバルーンアートのワークショップやアコースティックライブ、特産品の即売会を楽しむ多くの家族連れでにぎわいました。

人間国宝・三代目神田松鯉門下 講談師 神田鯉花さんが凱旋公演



5月3日、「瀬戸内しこちゅー寄席」がしこちゅーホールで開かれ、本市出身の講談師・神田鯉花さんが出演しました。満席の会場で大迫力の講談を披露した鯉花さんは、「地元で公演できたことが本当にうれしい。2回、3回と続けて、真打ちに昇格したときには、大ホールを埋めたい」と目標を掲げました。





大型連休最初の祝日は親子で創作活動 子どもの祭典に来場者多数

4月29日、みしま児童センターで子どもの祭典が開催され、紙コップ約1万5千個で作る「紙コップランド」や水引を使って鯉のぼりを作るワークショップなどを楽しむ親子でにぎわいました。

紙コップランドでは、子どもたちが家族と協力したり競い合ったりしながら紙コップを積み上げました。



地産地消を親子で学ぶ 児童らが学校給食米の田植えを体験

4月26日、土居町蕪崎にある則友祝幸さんの田んぼで、恒例の学校給食米田植え体験会が開催され、参加した児童と保護者約200人が、まだ冷たい田んぼの中で泥に足を取られながら懸命に苗を植えました。

今回植えた学校給食米「うまさだち」は、9月頃に給食で提供される予定です。



国を越えた教育交流 国立オレワカレッジ校長が表敬訪問

5月9日、中学生の海外派遣やホームステイの受け入れなど、24年間にわたり本市と交流のあるニューージーランド国立オレワカレッジからウィリー・ウォリナー校長(写真中央)らが来日し、大西市長と今後の交流について意見を交わしました。

11月には、市内の中学生18人が同校を訪問する予定です。



感謝の気持ちを伝えよう 園児たちが大西市長を表敬訪問

認定こども園三島幼稚園では、毎年5月8日に「お花まつり」を開催し、鼓隊演奏やパレードなどで地域との交流を深め、お互いを思いやる心を育んでいます。この日は、同園の年長児17人が大西市長を表敬訪問し、お花まつりの報告と日頃の感謝の気持ちを伝え、花束と甘茶を贈呈しました。



EXPO大会の成功を願って 伊藤園とSHIPSが桜を植樹

4月24日、書道パフォーマンス甲子園の協賛企業である株式会社伊藤園(本庄大介代表取締役社長 執行役員)が取り組む「わたしの街の未来の桜プロジェクト」の記念植樹が三島公園で行われ、大会の運営を担う高校生11人が、同社の山名悟四国地区営業部長と2本のソメイヨシノを植えました。



きれいな川で大きくなってね 園児たちが稚鮎2万匹を放流

5月9日、金生川ラバーズ(井上百代会長)と銅山川漁業協同組合(坂上正則代表理事組合長)による稚鮎の放流事業が、金生川と銅山川でありました。

金生川では、園児たちが小さなバケツから大きな川に旅立つ鮎に「大きくなってね」と声を掛けたり手を振ったりして見送りしました。(27ページに関連記事)



25年にわたり民生委員・児童委員活動 井川住子さんに厚生労働大臣特別表彰

前川之江地区民生委員・児童委員協議会会長の井川住子さん（川之江町）の多年にわたる活動がたたえられ、厚生労働大臣特別表彰が贈られました。

井川さんはこれまでの活動を振り返り、「全ての活動が新鮮でした。多くの方と知り合えたこと、話ができることが何よりの財産です」と話しました。



6年ぶりの快挙 川之江柔道会が全国大会に出場

川之江柔道会の選手6人が、今年3月の県大会で6年ぶりに団体優勝を果たし、5月に講道館（東京都文京区）で開催された「全国少年柔道大会」に出場しました。

選手らは、4月14日に市長を表敬訪問し、全国大会に懸ける意気込みを伝え、県代表として全力を尽くすことを誓いました。



その日のために連携を深める 警察・自衛隊・市が合同災害訓練

4月22日、四国中央警察署と自衛隊、市消防本部などが合同で、南海トラフ地震の災害訓練を消防防災センターで行いました。

訓練は、地震で警察署が使えなくなったことを想定し、同センターに設置した警備本部と市災害対策本部が連携して、情報の共有や負傷者の救助に当たりました。



新しい本社事務所を福祉避難所に 補助工業と本市が防災協定を締結

5月1日、補助工業株式会社（井上雄次代表取締役社長・写真左）と本市は、災害時の施設利用に関する協定を締結しました。今後、4月に完成した同社の新本社事務所（村松町）の一部が、避難時に配慮が必要な妊産婦や小さな子どもがいる家族などを受け入れる「福祉避難所」として提供されます。



みんなで楽しくわいわい集まる場所 「あいあい北野」に小さな親切实行章

5月8日、土居町北野にある認知症カフェ「あいあい北野」（近藤タカエ代表）のこれまでの取り組みが高く評価され、公益社団法人「小さな親切」運動本部から表彰状が贈られました。近藤代表は、「もつと多くの人に来てもらえるように、長く続けていきたい」と意気込みました。（21ページに関連記事）



仲間の故郷ミャンマーに届けてほしい 石川ヘルスケアグループが救援金

5月9日、HITO病院などを運営する、石川ヘルスケアグループ（石川繁一会長・写真右）から、ミャンマー地震の復興に役立ててほしいと、職員などから集めた救援金が日本赤十字社に寄付されました。同グループでは、ミャンマーからの外国人技能実習生38人が、医療や介護の現場で活躍しています。

本紙上で紹介できなかった記事や写真は、ホームページ「まちの話題」に掲載しています



5月8日、三島川之江港の港湾運送事業者で構成される三島川之江港運協議会（石川裕介会長・写真中央右）から、輸送能力の向上や南海トラフ地震対策など、港湾施設の機能強化を求める要望書が大西市長に提出されました。大西市長は、「早期の実現に向けて最大限努力していく」と話しました。

物流新時代に対応し巨大地震に備える港湾を 三島川之江港運協議会が要望書提出

環境省中国四国地方環境事務所の大林圭司四国事務所長（写真右）から認定証を受け取った大王製紙（株）棚橋敏勝取締役常務執行役員（同左）



大王製紙株式会社（若林頼房代表取締役社長）が継続的に自然環境の保全に取り組んできた上柏町の横岡山社有地が、環境省から生物多様性が保全されている区域「自然共生サイト」に認定され、5月9日に市役所で認定証の授与式が行われました。

自然環境保全活動を高く評価 大王製紙社有地 自然共生サイトに認定

5月11日、紙のまち資料館近くの金生川に、鮎柄の鯉のぼり「鮎のぼり」が架け渡されました。金生川の環境保全活動などに取り組む金生川ラバーズ（井上百代会長）が、鮎が生息する川の魅力伝えるために設置した160匹の鮎のぼりには、市内の園児たちによって似顔絵やメッセージが書かれています。この鮎のぼりは、6月14日まで金生川を泳いでいます。ぜひご覧ください。



ちよつとそこま
広報
SAMPO

そじょう
**稚鮎の遡上を応援！
金生川を
鮎のぼりがそよぐ**

ざやくふうまんぱん
逆風満帆！

腹に据える精神

令和7年4月20日、大西賢治の人生で最大のイベントを公職選挙法が開いてくれた。

この四国中央市において参政権を行使し、投票行動を行ったのは2人に1人。残念ながら有権者の約半分がその権利を放棄した。明らかに、けんじの努力不足であると猛省している。「このまちの流れを変える」という志をもって挑んだはずが、その思いが市民・有権者の半分にも届いていない。

更に、「大西けんじ」と書いてその賛意を表してくれた人は5人に1人に満たない。

そして4月28日、残りの人々に思いを伝え続ける4年間の自分との闘いが始まった。

このまちをこよなく愛し、子どもたちに四国中央市の明るい未来をプレゼントするために、市政を善進させるという決して平坦ではない道程である。

共に歩む仲間たちと味わった当選の歓喜から、職場の仲間たちに温かく迎えられた就任の覚悟を経て、山積する難題に立ち向かう日々、腹に据える精神は常に「逆風満帆」。

前から吹いてくる強風を心地良いと思え！そしてその風を全身で受け止め、推進力に変えて力強く前へ進め！と自身に言い続けよう…

四国中央市長
大西賢治



SAILING INTO THE WIND WITH FULL SAIL.